

令和 6 年度 雀宮東小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重の教育を基盤として，新たな時代をたくましく創造的に生きていくことのできる，心身ともに健康で，思いやりのある心豊かな児童を育成する。

・目指す児童像

1 豊かな人間性の育成

《心豊かで素直な子》

自他の生命を尊重し，健康で安全に行動するとともに，社会の中でたくましく生きていくことのできる能力や態度を育成する。

2 自ら学ぶ能力や態度の育成

《よく考え進んで学ぶ子》

自らよく考え正しく判断し，創意工夫して的確に行動し，全力を出すことができる能力や態度を育成する。

3 体力と気力の増進

《健康でがんばる子》

自らの健康に関心を持ち，心身ともに健やかな体を育めるような能力や態度を育成する。

4 自主的・自律的な態度の育成

《決まりを守り責任を果たす子》

学校集団の中で自分のよさを知り，よさをより伸ばそうとしたり，集団の一員としてよりよい生活を築こうとしたりする能力や態度を育成する。

(合言葉)

すなおで

かしこく

たくましく

責任果たす ひがしの子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

雀宮東小学校の歴史と伝統を重んじ，「すなおで かしこく たくましく 責任果たす ひがしの子」の育成を目指し，学校・家庭・地域が一体となって，創意工夫をこらした教育活動を展開し，誰もが安心して学べ，活力にあふれる，地域とともにある学校づくりを推進する。

・目指す学校像

◆楽しく充実した居がい感のある学校 ◆子供と教師が共に育つ学校 ◆地域とともにある魅力ある学校

3 学校経営の方針（中期的視点）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

○（１）《活力あふれる楽しい学校づくり》

児童一人一人のよさを認め，児童にとって居がいのある活力あふれる楽しい学校づくりに努める。児童一人一人を大切にすることを具現化するため，地域や児童の実態に即した創意工夫ある教育課程の編成に努める。また，教育者としての愛情と使命感をもった教師力の向上に努める。

- ・特色ある教育課程の編成・運用・改善
- ・教職員の資質の向上
- ・認め励ます教育の充実
- ・学年，学級経営の充実

○（２）《豊かな心の育成》

全教職員の共通理解のもと，のみどり活動を中心とした体験活動を充実させるとともに，道徳教育・読書活動の充実を図り，児童一人一人に感謝の心や思いやり，想像力などの豊かな心を養う。

- ・体験活動の工夫と充実
- ・「特別の教科 道徳」の充実
- ・読書活動の推進

○（３）《確かな学力の定着》

分かる授業の展開と基礎・基本の確実な定着，学び合う時間の充実に努め，児童一人一人の学ぶ意欲を高めるとともに確かな学力の定着を図る。

- ・学びに向かう力の育成（知識・技能の習得，思考力・判断力・表現力等）
- ・基礎・基本の定着
- ・自分の考えを深める学習の充実
- ・家庭学習の習慣化

（４）《健やかな体の育成》

教科体育を核に体力・気力を養う教育の充実を図り，健康で安全に生活できる能力・態度を育成する。

- ・基礎体力の育成
- ・教科体育の工夫と充実
- ・危機回避能力の育成

○（５）《児童指導の充実》

決まりやマナーを守り，いじめを許さず，児童一人一人が自分で考え行動しようとする態度を育てる。

- ・規範意識の醸成
- ・いじめを許さない態度の育成
- ・不登校対策の取組の充実

（６）《特別支援教育の充実》

特別支援教育の視点に立った授業改善を図り，全校体制で配慮を要する児童への支援の工夫に取り組む。

- ・特別支援教育の視点に立った授業改善
- ・特別な支援を要する児童への支援の工夫

○ (7) 《地域とともにある学校づくり》

家庭・地域・地域学校園との連携を密にし、地域の教育力を生かした学校づくりに努める。

- ・地域との交流活動の充実
- ・情報の効果的な発信
- ・雀宮地域学校園における小中一貫教育の推進

【雀宮地域学校園教育ビジョン】

一人一人が自らのよさを自覚し、主体的に学ぶ児童生徒の育成

～いきいきとした活動を通してつながる～

(8) 《勤務時間を意識した働き方の推進》

新しい時代の教育に向けた学校における働き方の推進に向けて、適切な勤務時間の設定ができるよう改善を図り、校内の業務の効率化・簡略化に努めるなど学校運営の適正化に努める。

- ・校内業務の適正化・効率化
- ・教職員の勤務時間管理の徹底
- ・日課及びリフレッシュデーの充実
- ・保護者や地域の教育資源等の有効活用

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法，教育基本法，学校教育法，小学校学習指導要領等の教育関係諸法令並びに「栃木県教育振興基本計画 2025」「宮っこ未来ビジョン」「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」等の示すところに従い，公教育の立場を堅持した教育課程を編成する。
- (2) 本校創立以来 150 年の歴史と伝統を踏まえ，児童の実態や学校の特色，地域のもつ豊かな教育力を生かして，知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで「生きる力」を身に付けた児童の育成を目指した教育課程の編成に努める。
- (3) 本年度の学校教育目標，学校経営方針，努力点や具体策，学校課題の具現化を図るとともに，学校教育の活性化を図る特色ある教育課程の編成をする。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

学校・家庭・地域の連携を基盤とし，児童一人一人が自らのよさを発揮しながら生き生きと学べる学校づくりを推進する。校内の業務の適正化に努め，勤務時間を意識した働き方を推進するとともに，教職員が持てる力を発揮し，チームとして動ける学校づくりに努める。

(2) 学習指導

個に応じた豊かな学び～ICT 機器の効果的活用を通して～

(3) 児童生徒指導

- 豊かな心と正しい判断力をもち，自ら進んで行動できる児童の育成

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

- 生涯を通じて健康な体を維持し，体力・気力を向上していくための基盤づくり

～自分の健康に関心を持ち，進んで健康・体力の増進に励むとともに，自他の安全に配慮できる児童の育成～

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	表中数字：上段は令和5年度 下段は令和6年度 太数字：前年度比±5ポイント 評 価												
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答85%以上	① 「学習のきまり」を効果的に活用しながら、基本的な学習態度の定着を図る。 ② 学習のねらいを明確化し、「分かる授業」の具体的方策を工夫し実践するとともに、振り返りの時間を設けることで、授業力を高め、学力向上を図る。 ③ 授業において、子ども一人一人が自分の考えをもち、友達の意見を比べて聞くことで、自分の考えを深める学習が行えるようにする。 ④ 「家庭学習の進め方」を効果的に活用しながら、学習習慣の定着を図る。また、家庭学習パワーアップウィークを実施し、保護者の理解と協力を得る。	B	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>95.4</td><td>100</td><td>87.6</td><td></td></tr><tr><td>96.4</td><td>100</td><td>85.1</td><td></td></tr></table> 児童の肯定的回答率は96.4%で、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、これからも「学習のきまり」を効果的に活用しながら、基本的な学習態度の定着を図る。 ・②については、今後も学年の発達に応じたノート指導、自分の考えや意見を整理し考える時間の確保、根拠を明確にしながら発表できる場の設定など、進んで発表する力を付ける指導を推進する。 ・③については、「自分の考えを深める学習」や「児童が話し合ったり、伝え合ったりする活動」を意図的に設定し、児童同士のよりよい学び合いが成立するようにする。 ・④については、「家庭学習の進め方」を効果的に活用しながら、学習習慣の定着を図ってきた。次年度も「家庭学習の記録」を活用し、保護者の理解と協力を得て学習習慣の定着を図る。	児童	教職員	保護者	地域	95.4	100	87.6		96.4	100	85.1	
	児童	教職員		保護者	地域											
95.4	100	87.6														
96.4	100	85.1														
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童生徒は、思いやりの心をもっている。」 ⇒児童の肯定的回答85%以上	① 「よい子の一日」「学習のきまり」を活用して、帰りの会等で毎日の活動を振り返り、誰に対しても優しく、思いやりの心をもって、規律ある学校生活が送れるようにする。 ② 学級活動、道徳等において、言葉遣いの大切さについて計画的に指導する。 ③ 友達同士で呼び合うときに「～さん」を付けることを指導する。 ④ 保護者・地域住民に特別の教科「道徳」への理解と協力を得るため、授業参観で全学級授業公開する。 ⑤ 児童の自己肯定感を高めるため、にっこりさんカードを使用し、他人の良さを認め、励まし、称賛する機会を増やす。	B	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>95.4</td><td>100</td><td>97.4</td><td>100</td></tr><tr><td>94.1</td><td>100</td><td>95.0</td><td>100</td></tr></table> 児童の肯定的回答率が昨年度より1.3ポイント下回ったが、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、昨年度と同様、「よい子の一日」「学習のきまり」を活用して、児童が正しく判断し責任ある行動がとれるよう指導したり、いじめゼロ運動やあいさつ運動を行ったり、帰りの会等で毎日の活動を振り返りたりして、児童が授業と生活のきまりやマナーを守った学校生活を送れるようにする。 ・②については、学校だより、学年だよりをはじめ、学年懇談の際にも学年に応じた具体的な場面を例に挙げて保護者に啓発を行う。 ・③については、今後も友達同士で呼び合うときに「～さん」を付けることを指導するとともに、教師が範を示していく。 ・⑤については、児童の自己肯定感を高めるため、引き続き全学級で継続していく。	児童	教職員	保護者	地域	95.4	100	97.4	100	94.1	100	95.0	100
児童	教職員	保護者	地域													
95.4	100	97.4	100													
94.1	100	95.0	100													

	A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答90%以上	① 小テストや家庭学習等を通して、漢字や計算の定着を図る。 ② 運動能力検定表（水泳・鉄棒・なわとび）の積極的な活用を図る。 ③ 「宮っ子心の教育表彰」等を活用し、児童の良さや努力などを認め励ます教育を推進する。	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>91.2</td><td>100</td><td>80.2</td><td></td></tr> <tr> <td>94.5</td><td>100</td><td>84.7</td><td></td></tr> </tbody> </table> 児童の肯定的回答が3.3ポイント上回り、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、昨年度に引き続き、朝の学習の時間を活用した取組（すずどんチャレンジ）を継続し、さらに1人1台端末を活用していく。 ・②については、目標に向かってあきらめず粘り強く取り組むために、体力向上への意欲が継続するよう、健康や体力についての記録を知らせ、学校だより・学年だより・ホームページなどで保護者への啓発活動に努める。また地域学校園で共通の検定カードを活用し、児童が9年間を見通し、継続的に運動に取り組めるよう工夫する。 ・③については、全職員共通理解のもと、「宮っ子心の教育」を推進するとともに、「特別の教科 道徳」や「総合的な学習の時間」等の授業を通し、家庭や地域の教育力を生かし、児童が夢や目標をもって、社会に貢献できるよう、学校、家庭、地域が連携して取り組んでいく。	児童	教職員	保護者	地域	91.2	100	80.2		94.5	100	84.7	
児童	教職員	保護者	地域												
91.2	100	80.2													
94.5	100	84.7													

1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童の肯定的回答90%以上	① 運動量を確保した体育の授業づくりや休み時間等、一日一回は外遊びができるように努める。(運動ミニマム・元気っ子チャレンジへの継続的な指導) ② 「元気なときは歩いて登下校」の指導を全教職員共通理解のもと推進していく。 ③ 食育だより、保健だよりの配付や継続的な指導を通して、正しい食習慣を身に付け、健康の保持・増進に努めようとする態度を育てる。 ④ 学校栄養士の授業への参画や、お昼の校内放送での「給食一口メモ」により、児童の栄養についての意識を高める。	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>93.7</td><td>100</td><td>93.2</td><td>100</td></tr> <tr> <td>94.1</td><td>100</td><td>89.7</td><td>100</td></tr> </tbody> </table> 児童の肯定的回答が0.4ポイント上回り、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、次年度も体育的な行事やドッジボール集会などを実施したり、体力を向上させるような環境を整備したり、体力向上への意欲や運動の習慣化を図る。また、体力テストの結果分析をもとに、バランス良く運動能力を高めていくようにする。特に、瞬発力・柔軟性を高めるための補助運動を取り入れるようにする。 ・②については、児童の健康や安全を考慮し、「元気なときは歩いて登下校」の指導を全教職員共通理解のもと全家庭に呼び掛け、推進していく。 ・③については、食育について日常的に給食を中心とした指導を行うとともに、食育だよりや保健だよりの発行に取り組み、児童の好ましい食習慣や食事のマナーを家庭と共有する。さらに、お弁当の日の実施により、家庭と協働して、児童、保護者の食への関心を高める。これからも望ましい食習慣と食事マナーが身に付くよう、9年間を見通した「食育マナー週間」を家庭と連携しながら進める。 ・④については、食育だよりを継続的に発行し、苦手な物でもバランスを考えて、今後も一口でも食べるという共通指導を継続する。学校栄養士の授業の参画を通し、バランスの良い食生活や好き嫌いせずに食べる指導を、家庭との連携を図りながら継続的に行う。また、バランスのとれた食事の摂取と、肥満対策について学校医と協働して取り組む。さらに、委員会活動等で、地産地消の紹介をするなどし、食に対する興味関心を高めていく。	児童	教職員	保護者	地域	93.7	100	93.2	100	94.1	100	89.7	100
児童	教職員	保護者	地域												
93.7	100	93.2	100												
94.1	100	89.7	100												
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	① 児童の自己肯定感を高めるため、にっこりさんカードを使用し、他人の良さを認め、励まし、称賛する機会を増やす。 ② 学級活動、特別の教科 道徳等において、協力することの大切さについて計画的に指導する。 ③ 「宮っ子心の教育表彰」等を活用し、児童の良さや努力などを認め励ます教育を推進する。	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>93.3</td><td>100</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>91.8</td><td>100</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> 児童の肯定回答率が昨年度より1.5ポイント下回ったが、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、次年度も「にっこりさんカード」の活用を継続するとともに、帰りの会で児童を称賛する場を設定するなどの取組を行い、自己肯定感を高めていく。 ・②については、引き続き学級活動、道徳等において協力することの大切さについて計画的に指導する。 ・③については、引き続き「宮っ子心の教育表彰」等を活用して、児童の良さや努力を認め励ます教育を推進していく。	児童	教職員	保護者	地域	93.3	100			91.8	100		
児童	教職員	保護者	地域												
93.3	100														
91.8	100														

A 6 児童は、英語を使って
コミュニケーションして
いる。
【数値指標】
全体アンケートの「児童生徒
は、英語を使ってコミュニケ
ーションしている。」
⇒児童の肯定的回答80%以
上

- ① 外国語活動の授業や ALT との交
流の際に、教員が英語を使うとと
もに、ALT を積極的・効果的に活
用し、英語のやり取りを中心とし
た授業を展開する。
- ② 外国語活動を通して、異なる文化
や習慣を理解し、それらを尊重す
ることができる能力や態度の育
成を図る。

B

【達成状況】

児童	教職員	保護者	地域
84.9	100		
86.4	100		

児童の肯定的回答率は、昨年度より1.5ポ
イント上回り、数値目標を達成した。

【次年度の方針】

・①については、児童自身が外国語活動の
学習のねらいや見通しをつかむことがで
きるよう、教職員が明確な課題の提示を工
夫するとともに、これからも教材教具の工
夫について、教職員間で学び合い、授業力
の向上に努める。
・②については、外国語で表現し伝え合う
ために、言語や文化について体験的に理解
を深め、積極的にコミュニケーションを図
ろうとする態度を育成する。

A 7 児童は、宇都宮の良さ
を知っている。
【数値指標】
全体アンケートの「児童生徒
は、宇都宮の良さを知ってい
る。」
⇒児童の肯定的回答85%以
上

- ① 生活科や社会科、宇都宮学、特別
な教科 道徳、朝の歌等におい
て、雀宮地区や宇都宮市など、地
域を教材にした活動を計画的に
実施する。
- ② 街の先生や地域ボランティア等
による読み聞かせや校外学習、の
みどり活動など、地域の人材や施
設・設備等の教育力を生かした学
習を充実する。
- ③ 地域協議会を有効活用し、地域コ
ーディネーターを中心に、学校を
支援するボランティアを募り、学
校・家庭・地域との連携、協力を
深める。

B

【達成状況】

児童	教職員	保護者	地域
91.6	100	70.6	
88.6	100	67.0	

児童の肯定的回答が昨年度より3.0ポ
イント下回ったが、数値目標を達成した。

【次年度の方針】

・①については、社会科や総合的な学習の
時間の「宇都宮学」、「特別の教科 道徳」
の地域教材を通し、雀宮地区や宇都宮市を
教材にした学習を実施したり図書資料や
1人1台端末を活用したりして、宇都宮の
良さを実感させる。
・②については、全教職員が地域の人材や
施設・設備等の教育力を生かし、教材研究
と授業研究を中心とした授業力の向上に
取り組み、今後も学習指導の充実に努め
る。
・③については、今後も地域協議会や地域
コーディネーター等の協力を得て、地域の
行事に児童が参加する機会を確保し、地域
の人と触れ合うことを通して、思いやりの
心や社会性の育成を図る。

2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 学習意欲の向上や学力の定着を目指し、教材・教具、ICTの活用による分かりやすい授業の展開に努める。 ② 情報教育担当や現職教育担当が中心となってICT活用法に関する情報を積極的に共有し、教職員の資質・能力の向上を目指す。 ③ 読書への関心・意欲を一層高めるため、調べ学習に図書資料を活用したり、司書やボランティアによる読み聞かせを開催したりする。	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.1</td><td>100</td><td>88.1</td><td></td></tr> <tr> <td>96.8</td><td>100</td><td>91.2</td><td></td></tr> </tbody> </table> 児童の肯定的回答率が昨年度より 2.7 ポイント上回り、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、これからも学校課題研究として取り組んできた教材・教具やICTの活用、さらに学習形態の工夫や授業改善により、分かりやすい授業の展開を図る。 ・②については、1人1台端末の授業における効果的な活用方法について研究するとともに、それに必要な教職員のICT活用指導能力の向上に積極的に取り組む。 ・③については、今後も、朝の読書の時間を確保するとともに、読書週間に魅力ある企画をしたりボランティアによる読み聞かせを実施したりするなどして、読書に親しませる工夫をする。また、家庭への啓発を行うため、「家読」の活用を行う。	児童	教職員	保護者	地域	94.1	100	88.1		96.8	100	91.2	
児童	教職員	保護者	地域												
94.1	100	88.1													
96.8	100	91.2													
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童生徒は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 種まき、田植え、稲刈り、どんど焼き等、のみどり活動に取り組み、自然への感謝の気持ちを培う教育活動に取り組む。 ② 避難訓練や交通安全教室等を計画的に実施するなどして、体験活動を通じた安全教育を推進する。さらに、様々な災害時における避難方法を保護者に周知し、連携を図る。 ③ クリーン活動やPTA奉仕作業、毎日のゴミのリサイクル等、環境維持を意識させる教育活動に取り組む。 ④ 社会科や総合な学習の時間を通して、環境問題やSDGsの理解を深める。	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>92.9</td><td>100</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>94.5</td><td>100</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> 児童の肯定的回答率は昨年度より 1.6 ポイント上回り、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、種まき、田植え、稲刈り、どんど焼き等、のみどり活動において、PTAや地域の協力を得るなどして、児童が自然への感謝の気持ちを培う活動の場を確保していく。 ・②については、これからも意図的・計画的に、避難訓練や交通安全教室等を実施するなどして、児童の安全・安心を第一に、体験活動を通じた安全教育を推進する。 ・③については、今後とも環境維持を意識させる教育活動に取り組むとともに、家庭との連携を図り、活動の充実に努める。 ・④については、今後も授業で環境問題やSDGsを意図的に取り上げ、活動の充実に努める。	児童	教職員	保護者	地域	92.9	100			94.5	100		
児童	教職員	保護者	地域												
92.9	100														
94.5	100														

3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答85%以上	① ケース会議により、学級やかがやきルームでの指導方針・具体策を組織的に検討し、児童一人一人のニーズに応じた指導を行う。 ② ユニバーサルデザインの視点にたった授業展開を行い、どの児童にも分かる授業を目指す。 ③ 授業の始めに本時のめあてを明示し、児童自身が学習の見通しをもって、授業に臨めるようにする。 ④ 通常学級、かがやき、にじいろ（特別支援学級）、のみどり（通級指導教室）の連携を効果的に行い、特別支援教育の充実を図る。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td></td><td>100</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>100</td><td></td><td></td></tr> </table> 教職員の肯定的回答率が昨年度同様 100%であり、数値目標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・①については、今後も児童一人一人のニーズを踏まえ、学級やかがやきルームでの指導方針・具体策を組織的に検討した上で、家庭との連携を図り、学習に取り組ませる。 ・②については、これからも、これまでの本校の研究の成果を生かし、ユニバーサルデザインの視点に立った授業展開を行い、どの児童にも分かる授業を目指す。 ・③については、分かる授業の実現に向けて、学習意欲の向上を目指した分かりやすい授業展開に取り組んでいくとともに、家庭学習の習慣化と質の向上を図る。 ・④については、習熟度別学習やT・T、ペア学習、かがやきルーム、のみどり教室の活用など学習形態を工夫し、児童一人一人を大切にしたいきめ細かな指導を継続して行う。	児童	教職員	保護者	地域		100				100		
児童	教職員	保護者	地域												
	100														
	100														
3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」 ⇒保護者の肯定的回答80%以上	① いじめ防止基本方針に基づき、全教職員が共通理解のもと、日頃から情報交換を行い、全校体制でいじめ根絶に取り組む。 ② 年間4回のアンケート調査や教育相談、Q-Uを活用して、いじめの早期発見・解消に努める。 ③ いじめゼロなかよし標語の募集・いじめゼロなかよし集会などを通して、児童が主体となっていじめを根絶しようという意識を育てる。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td>99.6</td><td>100</td><td>88.0</td><td>100</td></tr> <tr> <td>98.2</td><td>100</td><td>90.2</td><td>100</td></tr> </table> 保護者の肯定的回答率は昨年度より 2.2ポイント上回り、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、今後も本校のいじめ防止基本方針を全職員が共通理解したうえで、全校体制でいじめ根絶に取り組む。また、学校全体で情報を共有する。今後も、随時、日々の生活の中の様々な機会をとらえ、児童と積極的に触れ合い、その中から様々な情報を得て、児童の悩みに気付いていくようにする。 ・②については、全校児童に対して教育相談やアンケート調査を実施したり、児童一人一人の日常の様子を観察・支援したりし、いじめの早期発見・解消に努める。懇談会や各種便りにおいて、小さな課題についても学校の子供たちの様子として保護者に伝えるようにする。また、校内児童指導対策委員会を中心に、組織として、いじめの未然防止に向けた取組を充実させる。 ・③については、これからもいじめ根絶標語の募集・いじめゼロなかよし集会などを通して、児童が主体となっていじめを追放しようという意識を育てる。今後も、道徳の授業や教育相談を充実させながら、いじめ根絶に向けて指導していく。さらに、学校だよりや学年だより、児童指導だより、校内掲示等を通して、いじめ根絶に向けた学校の取組を発信していく。	児童	教職員	保護者	地域	99.6	100	88.0	100	98.2	100	90.2	100
児童	教職員	保護者	地域												
99.6	100	88.0	100												
98.2	100	90.2	100												

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。」 ⇒児童の肯定的回答85%以上	① お互いのよさを認めあう「にっこりさんカード」を活用し、児童がともに認め励まし合うクラスをつくる。 ② 児童のよさや頑張りを認め励ますことで、安心して活動に取り組めるようにしていく。 ③ 教育相談やアンケート調査を実施し、児童の実態を把握するとともに、不登校を生まないよう、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級経営を行う。 ④ 教職員同士が情報交換を密に行うなどして児童理解を深め、一人一人のニーズを把握して、適切かつ迅速に指導・支援する。	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>98.3</td><td>100</td><td>93.6</td><td></td></tr> <tr> <td>99.1</td><td>100</td><td>91.8</td><td></td></tr> </tbody> </table> 児童の肯定的回答率は昨年度と同水準で、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、今後も学習集団の育成の基本である学級経営を充実させ、学びに向かう集団づくりに取り組み、互いに認め合う安心感のある学級を目指すとともに、全児童を全職員で見守っていく体制の充実を図る。 ・②③については、これからも努力している児童を称賛することで、自信をもって活動に取り組めるようにし、児童がともに認め励まし合う学級経営を行う。 ・④については、教育相談やアンケート調査を実施するとともに、日常的に児童と向き合い、一人一人の児童が居がいを感じて学校生活を送れるよう、今後とも支援に努める。	児童	教職員	保護者	地域	98.3	100	93.6		99.1	100	91.8	
児童	教職員	保護者	地域												
98.3	100	93.6													
99.1	100	91.8													
3- (3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実 3- (4) 多様な教育的 ニーズへの 対応の強 化	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」 ⇒児童の肯定的回答85%以上	① 学校生活全体を通して、児童が活躍する場、発達段階に応じて主体的に活動する場を意図的に増やしていく。 ② 学びに向かう学級集団を育成するため、一人一人の学習意欲を高める工夫をするとともに、互いに認め合う安心感のある学級経営に努める。 ③ 正しい言葉遣いと挨拶、返事は、「その都度」、「その場で」指導することに全校体制で取り組む。（「あいさつすずどん」の実施）	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>98.3</td><td>100</td><td>90.4</td><td>100</td></tr> <tr> <td>97.7</td><td>100</td><td>90.8</td><td>100</td></tr> </tbody> </table> 児童の肯定的回答率が昨年度より0.6ポイントが下回ったが、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、発達段階に応じ、主体的に活動する場として、学校行事や総合的な学習の時間、児童会活動などに取り組んでいく。 ・②については、学びに向かう学級集団を育成するため、児童一人一人の学習意欲を高める工夫をするとともに、互いに認め合う安心感のある学級経営に努める。 ・③については、全教職員共通理解のもと、今後も正しい言葉遣いと挨拶、返事を励行していく。また、地域学校園で行っているあいさつ運動を通して、意識して挨拶ができるよう指導する。	児童	教職員	保護者	地域	98.3	100	90.4	100	97.7	100	90.8	100
児童	教職員	保護者	地域												
98.3	100	90.4	100												
97.7	100	90.8	100												

4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」 ⇒教職員の肯定的回答85%以上	① 学ぶ意欲の向上と基礎・基本の確実な定着を図る授業を目指して、ユニバーサルデザインの見地に立った授業を行ったり、児童同士が学び合う時間や場を設けたりするなど、指導方法の工夫・改善に取り組む。 ② 「雀宮東小学習スタンダード」を活用し、分かりやすい授業や、児童一人一人へのきめ細かな指導を行う。 ③ 発達の段階に応じて、宿題を適切な量にするとともに、「家庭学習の記録」を活用して、家庭での協力を働きかけ、家庭学習の習慣付けをする。	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>98.7</td><td>100</td><td>89.0</td><td></td></tr> <tr> <td>97.3</td><td>100</td><td>88.3</td><td></td></tr> </tbody> </table> 教職員の肯定的回答率が昨年度同様100%で、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、昨年度に引き続き、学び合う時間や場を意図的・計画的に設けたり、ユニバーサルデザインの見地に立った授業を行ったりするなど、全教職員共通理解のもと、分かる授業・楽しい授業を目指して学習指導に当たる。 ・②については、「雀宮東小学習スタンダード」で共通理解を図っている。分かる授業の実現のため、板書を工夫し、課題（目標）の提示からまとめまでの板書の整理、授業の終末での学習内容や思考を振り返る活動の設定など、学習指導の充実を図る。 ・③については、今後も「家庭学習の記録」を活用して、家庭と連携して進める。学習習慣の個人差を補うために、家庭や本人への更なる啓発を行う。	児童	教職員	保護者	地域	98.7	100	89.0		97.3	100	88.3	
児童	教職員	保護者	地域												
98.7	100	89.0													
97.3	100	88.3													
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答90%以上	① 学校に関わる職員全員がチームとなり、学校行事等において、協力して業務に取り組む。 ② 多様な専門性を有する学校スタッフの参画に当たっては、学校経営方針の具現化に向けて活用する。 ③ 児童指導情報交換会を週に1回行い、児童の実態把握や支援方策、役割分担について、教員と学校スタッフが共通理解する。	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td>100</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>100</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> 教職員の肯定的回答率が昨年度同様100%で、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、職員会議・職員研修・学年会等の機能を生かし、教育活動の工夫・改善に向けた取組を継続するとともに、学校行事等の充実のため、反省を踏まえた行事の方向性を検討するなどして学校全体の活性化を図る。 ・②・③については、児童の実態把握などについて、学校に関わる職員全員が共通理解する時間を確保する。さらに、教職員と学校スタッフやボランティアが連携し、適切かつ適正な教育活動が行われるようにする。	児童	教職員	保護者	地域		100				100		
児童	教職員	保護者	地域												
	100														
	100														

4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答85%以上	① 教職員は、勤務時間（退勤時刻を意識する。）を意識して、業務の効率化に取り組む。 ② 授業時間の確保に努め、前年度の反省や各行事の記録を生かしながら教育課程を実施する。 ③ 事前の打合せや事後の振り返りをしっかりと行い、教員の業務を縮減する。 ④ ICTを活用し、職員会議や校内掲示板などにおいて、時間短縮や業務削減を行う。	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td>100</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>100</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> 教職員の肯定的回答率が昨年度同様 100%で、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、今後も、出退勤管理システム等を有効に活用しながら勤務時間（退勤時刻を意識する。）を意識して、業務の効率化に取り組む。また、リフレッシュデーや金曜日課を取り入れる。（リフレッシュデーには会議・研修等をいれない。） ・②については、充実した教育活動の実施に向け、行事等の精選にも努める。さらに、週案等により時数を管理するとともに、各行事等の反省を生かしながら各種計画を設定する。 ・③については、これからは校内支援体制を整備するとともに、事前の打合せや事後の振り返りをしっかりと行い、教員の業務を縮減できるよう取り組んでいく。 ・④については、今後とも、務の内容や方法を積極的に見直しミライムの掲示板やポータルサイトを効果的に活用する場を増やしていくことで、一層の業務の効率化を図る。	児童	教職員	保護者	地域		100				100		
児童	教職員	保護者	地域												
	100														
	100														
5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」 ⇒保護者の肯定的回答80%以上	① 教職員の乗り入れ授業（中→小）を積極的に行い、中学校への移行をスムーズにする。 ② 地域学校園における共通の取組（ドッジボール集会・衛生チェック・給食マナー週間・あいさつ運動等）を推進し、各種たよりで周知する。 ③ 地域学校園において、各部会で情報交換を実施する。	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90.0</td><td>100</td><td>82.4</td><td>92.9</td></tr> <tr> <td>92.2</td><td>100</td><td>79.2</td><td>100</td></tr> </tbody> </table> 保護者の肯定的回答率が昨年度を3.2ポイント下回り、数値目標は達成できなかった。 【次年度の方針】 ・①については、引き続き教職員の乗り入れ授業や宮っ子チャレンジウィーク、進学先中学校訪問等、小中一貫教育・地域学校園の小中の交流を進めていくことで、中学校生活への疑問・不安の解消を図る。 ・②については、今後も実施方法を工夫しながら、地域学校園における共通の取組（ドッジボール集会・水泳、縄跳び検定、衛生チェック等）を推進する。また、各種たより等でより周知を図る。 ・③については、児童の正しい言葉遣いと挨拶が定着するよう、今後も雀宮地域学校園で連携し、児童生徒指導に協働的に取り組む。	児童	教職員	保護者	地域	90.0	100	82.4	92.9	92.2	100	79.2	100
児童	教職員	保護者	地域												
90.0	100	82.4	92.9												
92.2	100	79.2	100												

5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒地域住民の肯定的回答 80%以上	① 効果的な学校開放のあり方を工夫し、土曜授業、「うつのみやオープンスクール」等の学校公開を実施する。 ② 地域協議会と連携して学校支援ボランティアを広く募集し、教育活動の充実を図る。 ③ P T A、地域協議会、地域学校園などと連携を図りながら、地域・家庭と共働して教育活動の充実を図る方策を工夫する。 ④ 学校だより、学年だよりなどの定期的な発行に加え、ホームページを定期的に更新するなど、積極的に情報発信する。また、地域協議会等の活動について、より一層効果的な広報を行う。 ⑤ 校外学習やオンライン授業で企業等と連携し、教育活動の充実を図る。	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95.4</td><td>100</td><td>88.4</td><td>100</td></tr> <tr> <td>95.0</td><td>100</td><td>89.7</td><td>100</td></tr> </tbody> </table> 地域の肯定的回答率は昨年度同様 100%で、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、土曜授業、「うつのみやオープンスクール」、のみどり活動を含め、学校公開を年間 4 回以上実施し、児童の活動状況を参観できる機会を位置付け、P T A や地域住民への積極的な学校公開を進め、地域とともにある学校づくりに努める。 ・②・③については、これからも学校支援ボランティアを広く募集し、教育活動の充実を図るために、高い専門性を有する人材の参加を積極的に進めるとともに、地域の各種団体や学校支援ボランティアの支援を得た取組を継続し、地域の教育力を生かした教育活動を推進する。 ・④については、学校のホームページの定期的な更新、学校だより、学年だより、地域協議会だよりなどを定期的に発行し、学校の情報を発信する。保護者や地域住民の方へ情報提供を行うことで学校の方針や取組を理解してもらえるよう努めていく。 ⑤今後も、社会教育施設や企業等と連携し教育活動の充実を図る。	児童	教職員	保護者	地域	95.4	100	88.4	100	95.0	100	89.7	100
児童	教職員	保護者	地域												
95.4	100	88.4	100												
95.0	100	89.7	100												
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 災害時避難方法や児童送迎時の自家用車乗り入れ方法の周知、避難訓練等の危機管理に関する情報を、保護者や学校施設利用者に周知する。 ② 全教職員が毎月の安全点検を行い、利用する人が安全に活動できる環境づくりに取り組む。 ③ 校舎内外の整備保全や、教材教具の整備に努め、学習意欲を高めるとともに、学習内容に沿った教室掲示を心がけ、学びに向かう環境を整備する。	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td>100</td><td>90.9</td><td>80.0</td></tr> <tr> <td></td><td>100</td><td>90.5</td><td>91.7</td></tr> </tbody> </table> 保護者の肯定的回答率は昨年度と同水準で、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、昨年度に引き続き、災害時避難方法や児童送迎時の自家用車乗り入れ方法の周知、避難訓練等の危機管理に関する情報を、保護者や学校施設利用者に周知する。 ・②については、今後とも校舎内の巡視をするとともに、月 1 回施設・設備の安全点検を実施し、必要な箇所の修繕を迅速に行い、児童に好ましい学習環境の整備に努める。特に、環境が人をつくることを意識し、毎日の清掃活動に主体的に取り組ませる。 ・③については、これからも施設・設備の点検・修繕を日常的・定期的に行い、危機の未然防止の対策（修繕・整備）として、迅速に対応する。今後も予算の増額を市教委に要望するとともに、予算の計画的な活用をさらに進める。	児童	教職員	保護者	地域		100	90.9	80.0		100	90.5	91.7
児童	教職員	保護者	地域												
	100	90.9	80.0												
	100	90.5	91.7												

6ー(2) 学校のデ ジタル化推進	A20 コンピュータなどのデ ジタル機器やネットワ ークの点から、授業（授業 準備も含む）を行うため の準備ができています。 【数値指標】 全体アンケートの「コンピ ュータなどのデジタル機器やネ ットワークの点から、授業（授 業準備も含む）を行うための 準備ができています。」 ⇒教職員の肯定的回答85% 以上	① 情報教育担当者を中心として、情 報を積極的に共有し、デジタル機 器の利活用についての共通理解 を図る。 ② ICT支援員を活用し、デジタル 機器の整備や児童の活用に対す る支援等を推進する。	B	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td></td><td>100</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>100</td><td></td><td></td></tr></table> 教職員の肯定的回答率は100%で、数値目 標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、次年度も引き続き職員研 修や情報共有を行うことにより、デジタル 機器を授業で効果的に活用できるように する。 ・②については、今後もICT支援員によ る支援を推進していく。	児童	教職員	保護者	地域		100				100		
	児童	教職員		保護者	地域											
		100														
	100															
小・中学 校、地域 学校共 通、本校 の特色・ 課題等	B1 児童は、時と場に応じ たあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、 時と場に応じたあいさつをし ている。」 ⇒保護者の肯定的回答85% 以上	① 集会等の活用、掲示物や生活当番 による呼びかけなどを通して、あ いさつの大切さについて児童へ の啓発を行い、児童の意識を高め る。 ② 当番学級によるあいさつ運動を 実施し、児童の意識を高める。 ③ 地域学校園と連携したあいさつ 運動強化週間を実施し、児童の意 識啓発を図る。 ④ 保護者・地域の方など、来校者へ の積極的なあいさつを推進して いく。	B	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>97.1</td><td>100</td><td>89.0</td><td>100</td></tr><tr><td>95.0</td><td>100</td><td>86.5</td><td>100</td></tr></table> 保護者の肯定的回答率が昨年度より2.5 ポイント下回ったが、数値目標を達成し た。 【次年度の方針】 ・①については、これからも、学校・家庭・ 地域が協力しながら、あいさつの活性化に 向けて指導していく。各種便りを活用して 家庭に啓発を行うと共に、子供たちから進 んで挨拶をするように意識付けを図る。 ・②については、当番学級の児童だけでは なく、その他の児童もあいさつの合言葉 「あいさつすずどん」を意識した挨拶がで きるよう、全学級で指導する。児童の地域 住民の方々へのあいさつについて、長期休 業前には、地域の方々へのあいさつを心掛 けるように指導する。 ・③については、雀宮地域学校園挨拶運動 と連携したあいさつ運動を実施する。 ・④については、校内にあいさつのパネル を掲示し、生活当番による呼びかけなどを 通して、あいさつの大切さについて児童や 来校者への啓発を図る。	児童	教職員	保護者	地域	97.1	100	89.0	100	95.0	100	86.5	100
	児童	教職員		保護者	地域											
97.1	100	89.0	100													
95.0	100	86.5	100													
B2 児童は、きまりやマナ ーを守って、生活をして いる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、 きまりやマナーを守って、生 活をしている。」 ⇒児童の肯定的回答85%以 上	① 「よい子の一日」を効果的に活用 しながら、時と場に応じた言葉遣 いや目上の人に対する言葉遣い について指導する。 ② 生活目標の周知や振り返りの仕 方などについて、児童が主体とな った活動を展開して、児童一人一 人がきまりやマナーを意識して 生活できるようにする	B	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>95.8</td><td>100</td><td>94.1</td><td>93.3</td></tr><tr><td>96.8</td><td>100</td><td>92.8</td><td>100</td></tr></table> 児童の肯定的回答率が昨年度より1ポ イント上回り、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、昨年度に引き続き、教職 員での情報交換の時間を毎週実施し、児童 理解を深め、全教職員で指導に当たる。教 職員が率先して正しい言葉遣いを心掛け、 範を示す。 ・②については、今後とも、生活目標の周 知や帰りの会等での振り返りを行い、児童 が主体となった活動を展開して、一人一人 がきまりを意識して生活できるようにす る。 ・引き続き児童指導だより等を活用し、家 庭への啓発を図る。	児童	教職員	保護者	地域	95.8	100	94.1	93.3	96.8	100	92.8	100	
児童	教職員		保護者	地域												
95.8	100	94.1	93.3													
96.8	100	92.8	100													

B3 児童は食事の時マナーをしっかりと守っている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は食事の時マナーをしっかりと守っている。」 ⇒児童の肯定的回答85%以上	① 食育ファイルを使用し、継続して食に対する関心を高める指導を行う。 ② 食事マナー週間を年2回実施し、マナーへの意識を高める。 ③ 地域学校園で統一献立を実施したり、食育だよりを発行したりして家庭での食育への啓発を行う。 ④ 地域学校園統一お弁当の日を実施し、家族で食への関心を高める機会を作る。 ⑤ 「雀宮の日」に学校園共通の「ちゅんちゅんランチ」を実施し、地域の農産物への理解や生産者への感謝の気持ちを持たせる取り組みを行う。	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>98.3</td><td>100</td><td></td><td></td></tr><tr><td>95.9</td><td>100</td><td></td><td></td></tr></table> 児童の肯定的回答は昨年度を 2.4 ポイント上回り、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①と②については、1人1台端末を活用し、経年で食育ファイルがいつでも閲覧でき、食育がより身近なものとなるようにする。食事マナーに関するアンケートの内容を精査し、発達段階に合わせたものに作り変える。 ・③と④については、食育だよりやスクールタクトでのお弁当の日振り返りカードなど地域学校園統一の取組について、より児童が食への関心を高める機会となるようにする。 ・⑤については、「ちゅんちゅんランチ」や地元食材を使用した給食をとおして地産地消を推進し、地域の農産物への理解や生産者への感謝の気持ちをもたせる取組を行う。	児童	教職員	保護者	地域	98.3	100			95.9	100		
児童	教職員	保護者	地域											
98.3	100													
95.9	100													
B4 児童は、様々な教育活動に主体的に取り組んでいる。 【数値目標】 全体アンケートの「児童は、様々な教育活動に主体的に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答85%以上	① 運動会や遠足、縦割り班での活動、児童会活動等において、児童の意見を反映させたり主体的な活動の場を設定したりする。 ② 代表委員会の活動を通して、児童が自分たちの力で学校を良くしていこうとする意識をもてるようにする。 ③ 児童の自己肯定感を高めるため、にっこりさんカードを使用したり、帰りの会で「今日のにっこりさん」の時間を活用したりして、良さを認め、励まし、称賛する機会を増やす。	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>95.8</td><td>100</td><td>90.3</td><td></td></tr><tr><td>94.5</td><td>100</td><td>85.7</td><td></td></tr></table> 児童の肯定的回答率が昨年度を 1.3 ポイント下回ったが、数値目標は達成した。 【次年度の方針】 ・①については、昨年度と同様、縦割り班での人間関係づくりや、児童の意見を反映させた児童主体の児童会の活動に取り組んでいく。 ・②については、児童会を中心に、縦割り班活動における交流活動の機会を意図的に設定し、本校の良さを生かした特色ある教育活動を推進する。 ・③については、朝の会や帰りの会等で、児童を認め励ます場や児童が相互に認め合う場を設定し、児童の自己肯定感を高めていく。	児童	教職員	保護者	地域	95.8	100	90.3		94.5	100	85.7	
児童	教職員	保護者	地域											
95.8	100	90.3												
94.5	100	85.7												

	B5 児童は、歯の健康に関心をもち、食後進んで歯みがきをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、歯の健康に関心をもち、食後進んで歯みがきをしている。」 ⇒児童の肯定的回答85%以上 ※アンケート結果、教職員による観察結果等から総合的に評価	① 歯みがきタイム（黒板掲示資料と歯みがき動画）を確保し給食後のブラッシングの継続と推進を図る。 ② 養護教諭や学校歯科医、学級担任が連携して、健康への関心を高める指導の工夫をする。 ③ 保健だよりにより歯の健康に関する情報を載せ、歯みがきの習慣化やむし歯の早期治療についての啓発を図る。 ④ 歯みがきカレンダーを活用しながら歯みがきへの関心を高める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td>96.6</td><td>100</td><td>75.0</td><td></td></tr> <tr> <td>97.3</td><td>93.8</td><td>75.4</td><td></td></tr> </table> 児童の肯定的回答率が昨年度より0.7%上回り、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、引き続き、歯みがきタイムを確保していく。歯みがきを通して、児童の健康の保持増進に努める。 ・②については、歯の健康について、毎日の歯みがきタイムを活用した指導を行うとともに、保健だよりで児童の好ましい歯みがきの習慣化やむし歯の早期治療について啓発を図る。また、食後のブラッシングの継続と推進について、家庭と連携して児童の歯の健康への関心を高めると共に、企業とも連携を図り、歯みがき指導を行う。 ・③については、これからも、う歯治療率を上げていけるよう、積極的に保健だよりで知らせたり、長期休業の懇談で担任から個別に勧告したりするなど、家庭への啓発を図っていく。 ・④について、全学年の歯みがきカレンダー（年2回）や歯の健康教室（3年生）により、家庭と連携しながら歯みがきへの関心を高めていく	児童	教職員	保護者	地域	96.6	100	75.0		97.3	93.8	75.4	
児童	教職員	保護者	地域												
96.6	100	75.0													
97.3	93.8	75.4													
	B6 恵まれた自然環境を利用しながら、体験活動を通して地域に学び、地域のすばらしさに気づき、大切にしていこうとする児童を育成している。 【数値指標】 全体アンケートの「恵まれた自然環境を利用しながら、体験活動を通して地域に学び、地域のすばらしさに気づき、大切にしていこうとする児童を育成している。」 ⇒教職員の肯定的回答85%以上	① 種まき、田植え、稲刈り、どんど焼きなど、農業体験活動「のみどり活動」を年間を通じて実施し、自然に親しみ、地域を大切にしていこうとする児童の育成を図る。 ② P T Aや地域協議会との連携を十分に図り、学校・家庭・地域が協働して教育環境の整備に努める。 ③ 社会科や理科、生活科、総合的な学習の時間等における学習や、草花・野菜等栽培活動を通して、自然や生命を尊ぶ心を育てる。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td>97.1</td><td>100</td><td>90.1</td><td>100</td></tr> <tr> <td>95.0</td><td>100</td><td>89.1</td><td>100</td></tr> </table> 教職員の肯定的回答率は100%で、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、引き続き、地域の教育力を生かした体験活動である「のみどり活動」を年間を通じて実施し、自然に親しみ、地域を大切にしていこうとする児童の育成に取り組んでいく。 ・②については、地域協議会において、学校経営方針をより浸透できるように十分な説明を行うとともに、課題を明確にし、課題解決に向けた話し合いを充実させる。 ・③については、次年度も継続して、児童にさまざまな方々の協力で体験活動ができるという意識をもたせ、地域のすばらしさに目を向けられるようにする。また、草花・野菜等栽培活動や学習活動を通して指導の充実を図る。	児童	教職員	保護者	地域	97.1	100	90.1	100	95.0	100	89.1	100
児童	教職員	保護者	地域												
97.1	100	90.1	100												
95.0	100	89.1	100												

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

数値指標を、「肯定的回答 80%以上(6項目)」、「肯定的回答 85%以上(17項目)」、「肯定的回答 90%以上(3項目)」に設定したが、A17「学校は『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」の1項目を除く25項目で指標を達成できた。

本校の令和6年度と令和5年度の肯定的回答割合を比較すると、全75項目中、51項目(68%)で令和5年度の肯定的回答割合を上回っているか同等である。中でも、全体アンケートの地域住民のA19「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」(91.7%で+11.7%)、A17「学校は『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」(100%で+7.1%)、B2「児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活している。」(100%で+6.7%)の項目が、令和5年度の肯定的回答割合を大きく上回っている。また、A2「児童は、思いやりの心を持っている。」、「教職員はいじめが許されない行為であることを指導している。」の2項目については、児童・教職員・保護者・地域住民すべての肯定的回答率が90%を超えており、「豊かな心をはぐくむ教育の推進」や「いじめ・不登校対策の充実」に関する種々の取組が実を結んでいると考える。

本校の令和6年度と令和5年度の肯定的回答割合を比較すると、全体アンケートの教職員のB5「児童は、歯の健康に関心を持ち、食後進んで歯みがきをしている。」(93.8%で-6.2%)の項目で、令和5年度の肯定的回答割合を大きく下回っている。児童は高い割合を示しているが、教職員はまだ課題があると考えており、保護者の肯定的回答割合も低いことから、保護者とも連携した取組の充実が必要である。指標を達成できなかったA17「学校は『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」の項目については、地域学校園で連携した取組の充実とともに、保護者への周知の工夫が必要である。

宇都宮市の全小学校(69校)の全市共通肯定的回答と比較すると、93.4%の項目(全項目63のうち59)で宇都宮市全小学校の平均を上回っている。中でも、全体アンケートの保護者のA11「教職員はいじめが許されない行為であることを指導している。」(90.2%で+9.5%)の項目では、宇都宮市全小学校(69校)の平均を大きく上回っている。本校が継続して取り組んできた「いじめを許さず、児童一人一人が自分で考え行動しようとする態度を育てる。」教育が保護者にも理解されていることが分かる。今後もいじめ防止基本方針を全職員が共通理解したうえで、年間4回の学校生活アンケートや年間2回の教育相談週間を実施し全校体制でいじめ根絶に取り組むとともに、学びに向かう集団の育成に取り組み、互いに認め合う安心感のある学級を目指していく。それを基盤として、規範意識の醸成、いじめを許さない態度の育成、不登校対策の取組の充実確実に取り組んでいく。

7 学校関係者評価

ほぼ全ての項目において指標達成できていることはとても素晴らしく、学校全体での取組の効果が見られる。全体的に保護者の達成状況が昨年より下がっているのが気になるが、保護者の今以上の期待の表れかもしれない。

のみどり活動やどんど焼きなどの特色を生かし、学校・家庭・地域が一体となる魅力あふれる学校である。

学校訪問時、児童たちははっきり明るく挨拶をしており、適切な指導がされている。登下校時の地域での挨拶もよりできるようになってほしい。正しい言葉遣いとともに、大人が手本となって取り組んでいきたい。

歯磨き、手洗いなどは家庭生活での基本であり、保護者にアピールし、家庭での協力を求める取組が必要と思う。

児童は皆とても素直であり、いじめも見受けられず、いきいきと学校生活を送っている様子が日々感じられる。いじめ・不登校対策の充実については、教職員の取組が成果を結び、それが保護者にもきちんと伝わっている。また、当事者である児童がいじめを許さない環境づくりをすることも成果の大きな要因であると考えられる。教職員は、児童全員が元気よく登校できるよう、引き続きの取組をお願いしたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

児童や保護者、地域から愛される「開かれた学校づくり」に努めるとともに、地域の人々や地域の歴史、自然環境など地域の教育力を積極的に活用して、のみどり活動等、地域に根ざした「特色ある教育活動」の一層の充実を図っていく。今後も、保護者や地域と連携し、それに係る人材の確保に努めていく。

本校の学校運営の方針、教育活動の状況、学習指導、児童指導、健康・体力、本校の特色など教育に係る情報を積極的に公表するとともに、地域や保護者からの声を学校運営に反映し改善を図りながら、学校と保護者、地域が協力・連携した教育活動の充実に努めていく。

今後も、地域学校園の小中学校の交流活動や教員の相互授業参画を通して、義務教育9年間を見据えた教育の実践に努める。特に、「体力向上」「保健教育」「食育」「安全教育」の4つの教育分野に、地域学校園の共通理解のもと見通しをもって取り組んでいく。

いじめ防止については、今後も、いじめ防止基本方針に基づき、全教職員が共通理解のもと、日頃から情報交換を行い、子どもたちの素直な気持ちを生かしながら全校体制でいじめ根絶に取り組んでいく。

警察署や駐在所、PTA、地域協議会等とも日常的に連携を図り、学校と関係機関、地域が一体となって、児童の健全な育成と安全・安心な環境の整備に努めていく。特に通学路の安全確保については、保護者及び見守りボランティアと連携するとともに、安全点検等を活用して、重点的に行う。

課題の見られる評価項目については、各項目の次年度の方針のもと具体的な取組を実践し、課題の解決に努めていく。